

平成 30 (2018) 年 1 月 18 日

俳句会 於：ユック

杉野一博選

梅林や太平洋の波の音

イメージ パターン化

船矢深雪

冬銀河我が家に杖を置きしまま

故人の象徴 杖が生きている

船矢深雪

年女賽銭はづむ初詣

少々理屈っぽい

松原智津子

ウィーンへ懐炉も入る旅用意

ウィーンと懐炉 俳諧

松原智津子

昭和生き平成と生き福寿草

福寿草 効果的

木宮節子

御退位を告ぐる大君去年今年

事柄だけか

木宮節子

冬銀河いつしか友の忌おぼろなり

冬銀河の鮮明さと下五の対応がいい

滝田慶子

ペディキアの寒さの指の宇宙かな

下五の広がりがいい

滝田慶子

一願の高鳴る鈴や初詣

上五の焦点がいい

伊東次雄

荒波を戯れ散るや冬鷗

上五の「を」は「と」か

伊東次雄

いつのまにあいつもない去年今年

中七の切なさ

山本敏郎

金春の鼓響くや銀座の冬

中七と銀座の取り合わせ面白い

山本敏郎

読初の防人歌のちらとはは

下五の焦点決まっている

上澤孝二

寢床から鉛筆ひろふ七日かな

日常がさりげなくいかされた

上澤孝二

朝刊や小窓を入れる寒い風

上五が上五中七にかかる面白さ

森山圭悦

軽い雪腰にやさしくありがとう

下五はいるだろうか

森山圭悦

大寒や玄関口から鷗翔つ

杉野一博

空氷る指指す先へ血が流れ

杉野一博